

2019（平成31）年度

第1学年

学 習 の 内 容 と 評 価



IB ワールドスクール ユネスコスクール
スーパーサイエンスハイスクール
スーパーグローバルハイスクール

東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

1 学年の目標/伸ばしたい力

- 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて「読み取る力」。
- 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手に分かりやすく伝えるための「書く力」。
- 自分の考えを深めたり、他の人によりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に「聞き取る力」や「情報を整理する力」。
- 聞き手の身になってより分かりやすく伝えるための「話す力」。
- 言語についての知識やそれを活用する技能。

規準 A 分析 (Analysing)

- i. テキストの重要な側面を特定し、それについて意見を述べる。
- ii. 作者の選択を読みとり、それについて意見を述べる。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を説明する。
- iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点と相違点を見いだす。

規準 B 構成 (Organizing)

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
- ii. 意見や考えを論理的な方法で整理する。
- iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

規準 C 創作 (Producing text)

- i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探求しながら、思考や想像を示すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを育むために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

規準 D 言語の使用 (Using language)

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 分析 (Analysing)

定期テスト・ノート・ワークシート

規準 B 構成 (Organizing)

定期テスト・ノート・ワークシート・作文・スピーチ

規準 C 創作 (Producing text)

定期テスト・作文・発表・作品

規準 D 言語の使用 (Using language)

定期テスト・小テスト・スピーチ・暗唱

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 国語への関心・意欲・態度

観点 2 話す・聞く能力

観点 3 書く能力

観点 4 読む能力

観点 5 言語についての知識・理解・技能

学習内容

主に教科書『中学校 国語 1』（学校図書）を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習を行う予定です。

- 1：〈説明的文章〉・文章の構成や展開を理解し、筆者の考えを的確に読み取る。
 - ・筆者の考えを自分の問題としてとらえ考える。
- 2：〈文学的文章〉・表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造を把握する。
 - ・登場人物の心情を読み取りながら、文学の読み方、解釈の基本を学ぶ。
- 3：〈表現〉
 - ・身近な日常生活の中から伝えたいことを見つけ、意見をまとめる。
 - ・自分の意見を他者に分かりやすく正確に伝えるにはどのようにすればよいのか、他者の考えを聞き取るにはどのような点に注意すればよいのか考える。
- 4：〈古典〉
 - ・現代語訳を参照しながら作品に触れ、古典に親しむ。
 - ・古典の世界と現代生活のつながりについて考える。
- 5：〈国語の特質〉
 - ・ことばのしくみや役割を正しく理解し、読解や表現の学習に役立てられるようにする。
 - ・漢字の学習を進めながら漢字や語句への理解を深め、より多くの語彙を獲得する。
- 6：〈書写〉
 - ・毛筆と硬筆を用いて、正確で読みやすい文字を的確に書く力を養い、書字の基礎を身につける。（週に 1 時間）

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

1 学年の目標/伸ばしたい力

社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をいだく「力」
- 地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」
- 社会的な事象に対する自分の考えを、論理的な文章でまとめていく「力」
- 学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」
- SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」

1 年次では、地理的分野の知識や見方・考え方と関連づけながら、グローバル社会に生きる人間としての基礎的な「力」をつけていきます。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

規準 B 調査探究

規準 C コミュニケーション

規準 D 批判的思考

小テストや定期試験、授業中の学習活動、課題等から地理的事象に関する認識と理解の程度を評価します。
レポート等の課題に対し、テーマの選択・構成・多面的な情報収集等がどの程度できたかを評価します。
授業中のディスカッションやプレゼンテーションにおいて、自分の意見や調査した内容を、他者に対していかに的確に伝えることができたかを評価します。
定期試験や授業中の学習活動、課題等において、地図や統計資料を分析し読み取ることができたかを評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 社会的事象への関心・意欲・態度

観点 2 社会的な思考・判断・表現

観点 3 資料活用 of 技能

観点 4 社会的事象についての知識・理解

学習内容

- 【使用する教材】教科書「社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土」（帝国書院）
地図帳「中学校社会科地図」（帝国書院）
副教材「グラフィックワイド地理 世界・日本」（東京法令）

主な学習内容は以下の通りです。

【1 学期】

- 世界のすがた
- 世界の自然環境
- 世界の人々の生活と文化

【2 学期】

- 世界の中の日本
- 九州・沖縄地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方

【3 学期】

- 関東地方、東北地方、北海道地方
- 身近な地域の調査

6 か年を通した目標

6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

1 年次は、これらの目標や活動を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。
なお、通常の教科書と『TGUISS 数学』との対応は、別表 1、別表 2 のとおりです。

1 学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準

次の 4 つの規準で評価します。

- 規準 A 知識と理解
- 規準 B パターンの探究
- 規準 C コミュニケーション
- 規準 D 実生活への数学の応用

評価方法

規準 A

数学の概念とスキル (技能) に関する理解について、筆記テストを中心に評価します。

規準 B

様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

規準 C

場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

規準 D

数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 数学への関心・意欲・態度
- 観点 2 数学的な見方や考え方
- 観点 3 数学的な技能
- 観点 4 数量、図形などについての知識・理解

学習内容

『TGUISS 数学1』を使用しながら、次のような学習を行います。

①数の見方〔4月～〕

約数、倍数、素数、素因数などの意味を理解し、整数の性質について考察できるようにします。また、数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深めます。さらに、正負の数の四則演算ができるようにします。

(主な学習内容) 約数、倍数、素数、素因数、最小公倍数、最大公約数、負の数とその計算

②事象の見方 §1, §2〔6月～〕

さまざまな事象の変化のパターン、特に、再帰関係にある2つの数量間の関係を表・グラフ・式を用いて表すとともに、それらを用いて事象を数学的に考察できるようにします。

(主な学習内容) グラフ、ことばの式

③事象の見方 §3〔9月～〕

さまざまな数量間の関係や法則を、文字を用いて、式に表現したり、説明したりします。

(主な学習内容) 文字の式、一次方程式、文字による説明

④図形の見方〔11月～〕

さまざまな空間図形や平面図形の考察を通して、図形に対する見方や捉え方を豊かにするとともに、面積や体積を求めることができるようにします。

(主な学習内容) 投影図、回転体、空間における直線や平面の位置関係、多面体、正多面体、

柱体、錐体、球の表面積と体積、扇形の弧の長さ、面積、展開図

⑤データの分析〔1月中旬～〕

1変量の統計データを処理する方法として、表やグラフなどを用いた整理の仕方、および、代表値やデータの散らばりを表す数値の意味を理解し、データの傾向を捉える能力を身につけます。

(主な学習内容) 幹葉図、散布図、ヒストグラム、代表値(中央値・平均値・最頻値)、箱ひげ図

別表1

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	3年, 数学A	○
		正の数・負の数	1年	○
	事象の見方	関数の考え	1年	○
		文字式	1, 2年	○
		一次方程式	1年	○
	図形の見方	空間図形	1年	○
		投影図	1年	
		平面図形	1年	○
		球の体積, 表面積	1年	○
	データの分析	データの収集	1年	○
		データの分布と分析	1年, 数学I	○
2	一次関数と方程式	比例	1年	○
		一次関数	2年	○
		一次不等式	数学I	○
		連立方程式	2年	○
	平行と相似	平行四辺形	2年	○
		相似な図形	3年	○
		作図	1年	○
	図形の論証	三角形の合同条件	2年	○(上級)
		三角形の相似条件	3年	○(上級)
		四角形の性質	2年	○(上級)
		円の性質	3年, 数学A	
	相関と帰帰	相関	数学I	○(上級)
		帰帰	なし	○(上級)
3	三平方の定理と三角比	平方根	3年	○
		三平方の定理	3年	○
		三角比	数学I	○
	いろいろな関数とグラフ	反比例	1年	○(上級)
		$y=ax^2$	3年	○
		べき乗関数	数学II	
		二次関数	数学I	○
		関数のグラフ	数学I, II	○
		二次方程式	3年	
	数え上げ	集合	数学I, A	○
		場合の数	数学A	○(上級)
4	指数関数・対数関数	指数関数	数学II	
		対数関数	数学II, III	
	方程式と不等式	方程式と不等式	数学I, II	○
		整式の除法	数学II	○
		論理と代数的な証明	数学I, II	
	統計基礎	全数調査・標本調査	3年	○
		分布・分散	数学B	○
	確率	統計的確率	2年	○
		数学的確率	2年	○
		確率の基本的な性質	数学A, B	○
	整数の性質とその活用	整数の性質	数学A	
		数列	数学B	○

別表2

通常の教科書(現行)		本校のテキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	文字と式	1	事象の見方
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数
1	反比例	4	いろいろな関数のグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	資料の活用	1	資料の見方
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数
2	一次関数	2	一次関数
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形	2	図形の論証
2	四角形	2	図形の論証
2	確率	3	確率
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	4	方程式と不等式
3	二次方程式	4	方程式と不等式
3	関数 $y=ax^2$	4	いろいろな関数のグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	全数調査・標本調査	4	統計基礎
I	式の展開と因数分解	4	方程式と不等式
I	一次不等式	2	一次関数
I	二次方程式	4	方程式と不等式
I	二次関数	4	いろいろな関数のグラフ
I	図形と計量(三角比)	3	三平方の定理と三角比
I	図形と計量(三角比)	3	三平方の定理と三角比
A	整数の性質	1	数の見方
A	平面図形	2	図形の論証
A	集合と論理	3	数え上げ
A	場合の数	3	確率
A	確率	3	確率

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

1 学年の目標/伸ばしたい力

化学が応用されているものは身近に大変多い。日々の生活の中で、化学的視点を持って疑問を発見し、それを探求していく力を身につけていく。具体的なスキルは以下に示す。

- ・実験観察において、正しい理解のもとに実験観察を行う力
- ・協働的学びにおけるコミュニケーション力
- ・疑問を解決するためにはどうすればよいか考え、行動する力
- ・情報を処理し、正しく考察する力。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	探究活動・実験・観察の取り組み
規準 B 探究とデザイン	グループワークやプレゼンテーション
規準 C 手法と評価	レポート等の提出物
規準 D 科学による影響の振り返り	テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 自然事象への関心・意欲・態度
- 観点 2 科学的な思考・表現
- 観点 3 観察・実験の技能
- 観点 4 自然事象についての知識・理解

学習内容

1 学期 いろいろな物質

- ・有機物、無機物
- ・プラスチック
- ・密度

2 学期 液体、気体、個体

- ・物質の状態変化
- ・気体の性質

3 学期 水溶液

- ・溶解度
- ・濃度

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「生物」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

1 学年の目標/伸ばしたい力

観察の基本的スキルを身につけるとともに、植物を通して生物の生存戦略について、事実を元に考えられるようにする。また、自らテーマに沿った実験・観察を考え、グループで協力して事実を探究する資質を養う。

MYP 評価規準**評価方法**

規準 A 知識と理解

【A】テスト、レポート

規準 B 探究とデザイン

【B, C, D】課題研究・観察の取り組み

規準 C 手法と評価

【B, C, D】レポート等提出物

規準 D 科学による影響の振り返り

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 自然事象への関心・意欲・態度

観点 2 科学的な思考・表現

観点 3 観察・実験の技能

観点 4 自然事象についての知識・理解

学習内容

1 年の生物基礎 I では、観察に対する心得、植物の分類、植物のはたらきと人間生活との関わり、生存戦略という視点からみた形態について学習します。

6 か年を通した目標

宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものまでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。

1 学年の目標/伸ばしたい力

「分類」をキーワードに、できあがった分類について理解できる力が重要視されます。
地震という、日本に暮らす者にとって身近な現象について正しくとらえ判断できることが重要視されます。
地球の現在を時系列の中でとらえ、将来について考える基礎を身につけることが重要視されます。

MYP 評価規準**評価方法**

規準 A 知識と理解

【A】テスト、レポート

規準 B 探究とデザイン

【B, C, D】課題・観察の取り組み

規準 C 手法と評価

【B, C, D】レポート等提出物

規準 D 科学による影響の振り返り

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 自然事象への関心・意欲・態度

観点 2 科学的な思考・表現

観点 3 観察・実験の技能

観点 4 自然事象についての知識・理解

学習内容

1 年の地学基礎 I では、個体地球を構成するものとその構造について、また、地殻変動について学習します。
1 学期は天体としての地球と火山について学習します。
2 学期は変動する地球として、地層の変化や自信について学習します。
3 学期はそれまでの学習を生かして、身近な地質について学習します。

保健体育科 1 学年＜保健体育＞ MYP Physical and Health Education

6 か年を通した目標

体育：国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

保健：個人生活における健康・安全に関する理解を通して，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していく資質や能力を育てる。

1 学年の目標/伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに，学習内容を活用しようとする。

運動の原則やルールについて考えることができる。

一連の動きや技の構成などをスムーズに展開することができ，表現豊かに運動することができる。

運動に対して必要な技術を習得し，それを利用して課題解決を図ることができる。

個人やグループで，簡単な作戦や戦術を使って攻防したり，挑戦したりできる。

他者との連携を図ろうと，協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに，コミュニケーションをとることができる。

学習カードの提出等，決められた約束を守ったり，協力して懸命に取り組んだりすることができる。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	期末テスト，課題やレポート等
規準 B 活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定，計画書の記入
規準 C 応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準 D 活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出，取り組み等

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度

観点 2 運動や健康・安全についての思考・判断 観点 3 運動の技能

観点 4 運動や健康・安全についての知識・理解

学習内容

体育

- ① 体づくり運動／スポーツテスト：4 月～5 月
- ② 陸上競技Ⅰ（短距離走／リレー）：5 月～6 月
- ③ 水泳基礎Ⅰ：6 月～7 月，9 月上旬まで
- ④ 球技Ⅰ（ハンドボール）：9 月～10 月
- ⑤ 陸上競技Ⅱ（長距離走）：11 月～12 月
- ⑥ 器械運動Ⅰ（マット運動／身体コーディネーション）：1 月～3 月
- ⑦ 体育理論Ⅰ（スポーツの多様性）：1 月～3 月

保健

- 心身の発達と心の健康：4 月～12 月

※公開研究会等の都合により，学習の順番が前後することがあります。

6 年を通した目標

国際社会の一員として必要な豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、創造的な音楽性を培う。

1 学年の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養う。
- 2 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- 3 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

(A) ワークシート・作品のリサーチ

主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。

規準 B 技能の発展

(B) 歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏

実技によるスキルの達成度の評価と、リズムなども含む作曲作品の提出で評価します。

規準 C 創造的思考

(C) プロセスノート・ディスカッション

規準 B の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。それらを含めた総括的な振り返りを継続して行っているかを単元ごとに評価します。

規準 D 鑑賞

(D) グループワーク・相互評価

互いの作品や演奏に対して客観的に鑑賞し、相互に評価をします。また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。特に、学習内容が他分野・他教科と結びついたこと、自分の考えが他の芸術や他者の意見からどのように影響を受けたことなどについて、評価していきます。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 音楽への関心・意欲・態度

観点 2 音楽表現の創意工夫

観点 3 音楽表現の技能

観点 4 鑑賞の能力

学習内容

歌唱・鑑賞を中心にさまざまな音楽にふれて、音楽の楽しさや表現する楽しさを学びます。

また、IBMYP のカリキュラムに則って概念的、探究的な活動をおこないつつ、現代社会における音楽の役割や実社会と音・音楽のつながりについて理解を深めていきます。

<歌唱>

男子の変声期にも配慮しながら混声合唱に取り組み、姿勢や発声などを含めた混声合唱の基礎を学習します。また、日本語と外国語（主に英語）の両方に取り組みながら、それぞれの言語の特徴やそれらの音楽的な魅力について理解を深めていきます。

<鑑賞>

オペラやミュージカル、世界の伝統音楽などを鑑賞し、音楽とそれ以外の芸術との関わり方や、作品への理解、表現が完成されるまでのプロセスの理解を深めていきます。

歌唱で扱う楽曲と関連する鑑賞作品を味わい、また、同時にそれらの作品に取り巻く問題や課題などについて探究的に学習していきます。民族音楽やヨーロッパの伝統的な歌曲などを扱いつつ、その地方の歴史や風土、文化と関連付けながら、伝統的な表現の体験をしていきます。

<器楽>

基礎的なリズム学習から発展的なリズム演習を通じて、楽譜の記譜や他者との音楽的コミュニケーションを伸ばしていきます。MYP Arts ではパフォーミングアーツ分野として、身体的表現も演奏の一部として表現を深めていきます。

<創作>

編曲に準ずる表現の工夫をおこない、それらを活かした歌唱へとつなげていきます。

外国語の曲にも取り組み、歌詞の美しさや旋律の美しさを感じ取るとともに、自分たちなりに創意工夫し、音楽を表現していきます。

6 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

1 学年の目標/伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

1 年生はもっとも基礎的な学習をする時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

規準 B 技能の発展

規準 C 創造的思考

規準 D 鑑賞

The arts process journal (APJ)、レポート

表現活動、作品

APJ、ディスカッション

APJ、鑑賞活動

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 美術への関心・意欲・態度

観点 2 発想や構想の能力

観点 3 創造的な技能

観点 4 鑑賞の能力

学習内容

1 学期

4～7 月

デザイン 色彩やレタリングの基礎を学びます。相手への効果を意識した作品を制作します。

(主な学習内容・活動内容)

色彩の基礎。レタリングの基礎。ポスターカラーの取り扱い。

2 学期

9 月前半

鑑賞 自分達の作品を飾り、展示空間をつくれます。

(主な学習内容・活動内容) 作品を展示発表し鑑賞し合う。

9 月後半～10 月

絵画 身近な物をみつめ表現することにより、物の見方、表現の仕方の基礎を身につけます。

11～12 月

彫刻 材料の特性を生かした立体作品を制作します。

鑑賞 美術館でのフィールドワークを行ないます。

(主な学習内容・活動内容) 鉛筆等による描写。鑑賞。立体表現の基礎。彫塑の表現

3 学期

工芸 身近な生活に潤いをもたらす工芸に関心をもち、自然素材を生かした作品を制作します。

(主な学習内容・活動内容) 工芸の素材と美しさ。つくることのよさ。

*行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

6 か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。英語の基本的な語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に伸ばします。また、英語圏文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

At the end of phase 1, students should be able to:

Criterion A: Comprehending spoken and visual text

- i. identify basic facts, messages, main ideas and supporting details
- ii. recognize basic conventions
- iii. engage with the spoken and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a personal response to the text.

Criterion B: Comprehending visual and written text

- i. identify basic facts, messages, main ideas and supporting details
- ii. recognize basic aspects of format and style, and author's purpose for writing
- iii. engage with the written and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a personal response to the text.

Criterion C: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to simple short phrases
- ii. interact in simple and rehearsed exchanges, using verbal and non-verbal language
- iii. use basic phrases to communicate ideas, feelings and information on a variety of aspects of everyday topics
- iv. communicate with a sense of audience.

Criterion D: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a basic range of vocabulary, grammatical structures and conventions; when speaking, use clear pronunciation and intonation
- ii. organize basic information and use a range of basic cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

MYP 評価規準 Phase 1

評価方法

規準 A リスニング	テスト、インタビュー
規準 B リーディング	テスト、ワークシート
規準 C コミュニケーション	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
規準 D 言語の使用	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- 観点 2 外国語表現の能力
- 観点 3 外国語理解の能力
- 観点 4 言語や文化についての知識・理解

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて、英語の基礎を学習し、さらに表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。
慣用表現、日常会話、文化、行事、福祉、環境問題、ナレーション、広告、コミュニケーションスキルなど

外国語科 1 学年 <英語 1 Advanced>MYP Language Acquisition

6 か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていきます。同時に英語の 4 技能も伸ばしていきます。

At the end of phase 3, students should be able to:

Criterion A: Comprehending spoken and visual text

- i. show understanding of information, main ideas and supporting details, and draw conclusions
- ii. understand conventions
- iii. engage with the spoken and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions.

Criterion B: Comprehending visual and written text

- i. show understanding of information, main ideas and supporting details, and draw conclusions
- ii. understand basic conventions including aspects of format and style, and author's purpose for writing
- iii. engage with the written and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions

Criterion C: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. interact in rehearsed and unrehearsed exchanges
- iii. express ideas and feelings, and communicate information in familiar and some unfamiliar situations
- iv. communicate with a sense of audience and purpose.

Criterion D: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a range of vocabulary, grammatical structures and conventions; when speaking, use clear pronunciation and intonation
- ii. organize information and ideas and use a range of basic cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

MYP 評価規準 Phase 3

評価方法

規準A リスニング

テスト、インタビュー

規準B リーディング

テスト、ワークシート

規準C コミュニケーション

スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ

規準D 言語の使用

作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度

観点2 外国語表現の能力

観点3 外国語理解の能力

観点4 言語や文化についての知識・理解

学習内容

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

国際教養群 1 学年 <Learning in English (LE) 1 Core>

6 年を通した目標

言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。英語を初めて学ぶ生徒に対しては、英語のシャワーを浴びさせるように最初から授業中の指導言語は英語のみとし、毎日、英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しては、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。

評価規準

規準 A 知識と概念
規準 B プレゼンテーション

評価方法

インタビュー、ワークシート、作品、テスト
スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、
ディスカッション

学習内容

英語の基礎を学習し、英語でコミュニケーションをとることができるようになることから始まり、英語を通して他教科を意識した様々な内容を学習します。また、英語を使って人前で発表したり、会話で意思の伝達を積極的に行う態度を育成します。

使用予定教材

- Oxford Picture Dictionary
- Reading Adventures 1

国際教養群 1 学年 <Learning in English (LE) 1 Advanced>

6 年を通した目標

言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を身につける学年と位置づけています。英語を初めて学ぶ生徒に対しては、英語のシャワーを浴びさせるように最初から授業中の指導言語は英語のみとし、毎日、英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しては、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。

評価規準

規準 A 知識と概念
規準 B プレゼンテーション

評価方法

インタビュー、ワークシート、作品、テスト
スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、
ディスカッション

学習内容

英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。また、MYP に関する理解も深めます。社会科、数学科、理科など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。

使用教材

- Inside Reading 1 The Academic Word List in Context

3 か年を通した目標

プロダクトやソリューションの製作・開発を通して、現実世界の難問に対し、グローバルな視点で批判的かつ臨機応変に対応できる評価・活用能力や態度を養います。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、デザインサイクルの理解を中心に据えています。最もデザインサイクルを理解しやすいであろう道具を主とした木材加工による製作を行い、製品の機能と身の回りを結び付けながら、生活との関わりを考えます。

規準 A 探究と分析

- i. 問題解決の必要性について説明し、正当化する。
- ii. 最小限の助言で、問題解決を進展させるのに必要な調査の主なポイントを述べ、優先順位を立てる。
- iii. 問題解決を生み出す従来製品の主な特徴について記述する。
- iv. 妥当な調査による主要な結果について紹介する。

規準 B アイデアの発展

- i. 課題解決のための成功基準のリストを発展させる。
- ii. 適切なメディアを使った実行可能なデザインアイデアを提出し、主要な特徴をまとめ、他者から正しく理解される。
- iii. 選んだデザインについて、主要な特徴を記述して提出する
- iv. 計画図・表を 1 つ作って、選んだ解決策の制作における概要をまとめる。

規準 C 課題解決

- i. 計画の要点をまとめ、資源と時間の使用を考慮し、協働者がソリューションの制作に十分に従うことができる。
- ii. ソリューションを作るときに優れた技術を示している。
- iii. ソリューションの制作計画に従い、所定の役割を果たし、適切に示している。
- iv. ソリューション制作時に選んだデザインや計画の変更点を挙げる。

規準 D 評価

- i. ソリューションの成果を判断するため、簡単で関連したテスト方法の要点をまとめ、データを生成する。
- ii. 根拠ある製品テストを基に、設計仕様を参照してソリューションの成果の要点をまとめる
- iii. ソリューションをどのように改善したか要点をまとめる。
- iv. 顧客／ターゲット層に対しソリューションの影響の要点をまとめる。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 探究と分析

規準 A：プロセスシート 定期テスト

規準 B アイデアの発展

規準 B：プロセスシート 定期テスト

規準 C 課題解決

規準 C：プロセスシート、製作物、定期テスト

規準 D 評価

規準 D：プロセスシート

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 生活や技術への関心・意欲・態度
- 観点 2 生活を工夫し創造する能力
- 観点 3 生活の技能
- 観点 4 生活や技術についての知識・理解

学習内容

① 製図

私たちの身の回りにある製品は、設計する人と生産する人が同じであるとは限りません。生産における共通言語とも言える製図の知識をつけ、イメージを形にする力を養います。

② 木材加工

ラックを設計・製作します。製作するうえで目指す完成型は「他者が欲しいと思うもの＝製品レベルのもの」です。木材の特徴を理解したうえで、各家庭で使用することを前提に寸法やデザインを決め、設計をします。その後、製品に近づくためのプロセスを理解しながら、道具の使い方を学び、製作に移ります。

3 か年を通した目標

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

1 学年の目標/伸ばしたい力

1 年次は、主に家族や家庭と子供の成長に関して学ぶ。家庭の機能や環境、家庭経済についても理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を育てる。

規準 A 探究と分析

- i. 家庭生活における課題を解決する必要性をだれもが分かるように説明できる
- ii. 家庭生活の課題解決に必要な調査のポイントを述べ、優先順位を立てることができる
- iii. 家庭生活の課題を書き出すことができる
- iv. 家庭生活に関する調査の結果を発表することができる

規準 B アイデアの発展

- i. 課題解決を行うため必要なことを挙げることができる
- ii. 実現可能な計画を複数作り、他者によくわかるように発表することができる
- iii. 選んだ課題解決の方法を 1 つ提出することができる
- iv. 選んだ計画を実行するため、要点をまとめた計画図を作ることができる

規準 C 課題解決

- i. 資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、家庭生活における課題解決をすることができる
- ii. 家庭生活における課題解決で優れた技術を示すことができる
- iii. 計画に従って課題解決を行い、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を挙げるすることができる
- iv. 実行した課題解決の方法を発表することができる

規準 D 評価

- i. 課題解決の成果を判断するため、簡単なテストの方法の要点をまとめ、データを示すことができる
- ii. 計画図とは別に課題解決の成果について要点をまとめることができる
- iii. 家庭生活における課題解決をどのように改善したか要点をまとめることができる
- iv. 課題解決の成果が家族や地域の人々に与える影響について要点をまとめることができる

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 探究と分析

ワークシート、定期テスト

規準 B アイデアの発展

ワークシート、定期テスト

規準 C 課題解決

ワークシート、定期テスト

規準 D 評価

ワークシート、定期テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 生活や技術への関心・意欲・態度

観点 2 生活を工夫し創造する能力

観点 3 生活の技能

観点 4 生活や技術についての知識・理解

学習内容

①衣服の選択

- 衣服のはたらき ○TPO ○コーディネート
衣服と社会生活との関わりを考え、TPOに応じた着用の工夫ができるようにする

②幼児の成長と家族

- 幼児と心身の発達 ○幼児の成長
幼児の成長を考え、その特徴と年齢に応じた遊びについて学ぶ

③幼児の生活と家族

- 幼児の生活
幼児の成長を考え、発達段階にあった幼児の生活を学ぶ

④室内環境の整備と住まい方

- 住まいの役割 ○生活行為と住空間 ○住まいの安全
家族と暮らす住まいのはたらきを考え、安全な室内環境の整え方を学ぶ

⑤家庭生活と消費

- 消費生活 ○消費者の権利と責任
○商品の選択 ○いろいろな販売方法 ○悪質商法
消費生活における権利と責任、商品の選択と販売方法について学ぶ

国際教養群 1 学年 <情報>

1 学年の目標/伸ばしたい力

情報の扱い方や情報機器の取り扱い方を知識だけでなく、実生活で的確に判断行動することができるような情報リテラシーを養う

教科の観点

- ・ 課題に対する思考・判断
- ・ 課題に対する関心・態度・意欲

学習内容

① 本学コンピュータの使用方法

本学の PC 利用の際の環境設定を行うことにより、簡単な PC の仕組み（ディレクトリ構造やファイルに関する知識など）やネットワークの仕組み（WWW やメールなど）を理解する。

②情報を伝達するための工夫

Face to Face でないネットワーク（携帯電話を含む）の世界をどのように利用すべきかを、さまざまな課題を通してその方法を理解し、情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などを扱う。

③情報の検索と収集

情報を探す手段や方法によって得られる情報や作業効率が異なることを体験しながら理解する。また効率よく検索収集するためには、情報を提供する側にも工夫することが必要なことを認識する。

④ アルゴリズムとプログラム

アルゴリズムとプログラミングに関する基本的な知識と技術を実践し興味関心を高める。

国際教養 1～6 学年 <国際 1～6>

6 か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
 2. 国際理解・人間理解・理数探究 に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
- ここで 国際理解・人間理解・理数探究 とは、現代的な諸課題を見る 3 つの視点である。
- 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
 - 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
 - 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

- 〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに對しての耐性を養う。
- 〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準

総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はあります。

評価方法

各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省 中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

〈規準例〉

- LE（外国語科）：規準 A 知識と概念 / 規準 B プレゼンテーション
- 情報：規準 A 課題に対する思考・判断 / 基準 B 課題に対する関心・意欲・態度
- Global issues：規準 A 知識と理解 / 規準 B 調査研究 / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 批判的思考
- 英語以外の言語：規準 A リスニング / 基準 B リーディング / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 言語の使用
- 国際 B（College prep）：規準 A Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning / 基準 B Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

- 1 年 「国際 1（情報、理数探究）」、「Learning in English 1」
- 2 年 「国際 2」, 「Learning in English 2」
- 3 年 「国際 3」, 「Pre Immersion」, 「Learning in English 3」
- 4 年 「MYP Personal Project／課題研究」, 「Global Issues」, 「英語以外の言語」
- 5 年 「課題研究」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6 年 「課題研究」「国際 A（講座：憲法と人権・講座：国際協力と社会貢献）」「国際 B（講座：文学探究・講座：応用数学・講座：College Prep・講座：ファシリテーション実践）」

上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプ I・II（国内）・III（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。